

2023年度 東京YMCA国際ホテル専門学校 学校関係者評価表

1. 学校の教育目標

本校の教育目標はホテル・観光専門課程において以下の学生を育成し日本のホテル・観光業界に寄与する学生を輩出することが使命である。①ホスピタリティ溢れる人材の養成。②サービススキルはもとより、世界各国から訪日されるゲストをもてなす知識と技術の体得。③コミュニケーション力に溢れ、人と人の出会いの場と、豊かな人間関係が育まれる教育を目指す。

2. 本年度に定めていた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. Practice Hospitality を教育理念の1つとし職業実践教育を継続して行う。
(ホテルでの通常実習制度の充実)
2. 1 学生が2資格以上資格取得することができるようにする。
3. 就職率 95%以上を維持する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材増は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

宿泊産業における人材・人員不足が叫ばれ、卒業後に働く場所の労働環境が劣化してきていたが、雇用条件(給与)の改善も見られ少しずつではあるが労働条件が改善されてきている。逆に、企業による採用活動の早期化が顕著になり、志望企業を選択する時期が早くなっているため進路指導の時期が超早期化になっているのが悩ましい。内定受諾時期の早期化は、在籍生の修学へのモチベーションの維持が難しくなる。

② 今後の改善方策

入学と同時に、就職活動の対策を実施していかなければならず、学生へのキャリアガイダンスの前倒しと、採用試験への対策を早く実施することが必要不可欠な状態である。既存のカリキュラムスケジュールを変更しながらの進路指導が求められる。

③ 特記事項

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効的に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

物価上昇に伴う、講師給などの賃金の引上げを前向きに検討していかなければならないが、学生数の減少もあり、一長一短には行かない難しさがある。雇用枠の削減と雇用条件の引上げを考えなければならない。

② 今後の改善方策

学費の改定を行い、雇用条件の引上げを同時に行う。但し、学費を上げることで、学生数が減少しては、ならない為、非常に厳しい学校運営を求められる。18歳人口の減少、大学全入時代に専門学校が生き残る術は、外国人留学生の増員と思われるが、これまでの授業運営では対応できないこともあり、教員の意識改革、カリキュラムの精査が重要と思われる。

③ 特記事項

学生数の減少は顕著であり、今後新たな学科(留学生コースなどの)の設置を検討する必要あり。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成の目標達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

④ 課題

〔 日本におけるホテルマン教育のパイオニアとして 89 年の歴史を持つサービスマン養成校ではあるが、これからはマネジメントができる要素も多分にカリキュラムに取り入れて行かなければならない。 〕

⑤ 今後の改善方策

〔 新カリキュラムの開発。外国人留学生の在籍増を見込んだ、新カリキュラムの策定が急務。 〕

⑥ 特記事項

〔 卒業生の転職、再就職のサポートが望まれている。 〕

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

① 課題

採用活動の早期化が深刻。まだ、どの企業で、どんな仕事を明確に求めているかがハッキリしていない中で、就職活動となっている。専門学校の大きな使命は、学生が求めている企業・職種に就かせることだが、採用試験の超早期化にマッチングさせる時間の捻出ができていないのが大きな課題。

② 今後の改善方策

産業サイドの採用活動の考え方が変わらない限り、現状の悩みは続くが、入学後直ぐに、学生個々のキャリアデザインを描かせる指導体制が必要となる。

③ 特記事項

コロナ禍に止まっていた、留学生からの問い合わせが増加傾向。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

① 課題

学生に対する経済的な支援体制を、さらに強化できるようにする。関係団体や OBOG による校友会の支援要請を計画する。

② 今後の改善方策

関係団体や OBOG による校友会の支援要請を計画する。

③ 特記事項

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや適切…2、不適切…1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

定期的な学内での避難訓練の実施出来ているが、通学时・帰宅時の安全確保・避難体制の計画、情報共有システムなどの準備が急務。

② 今後の改善方策

メーリングリスト・SNSなどを効果的に活用して、在籍者の安否確認をできるようにする。

③ 特記事項

特になし

(7). 学生の受入募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

入学相談室の体制は非常に機能している。しかし、4年生大学の全入化に伴い資料請求者の維持、募集イベント参加者の確保などが直近の課題としてある。また、ホテル業界の労働環境の問題なども、学生募集に直結していることもあり、産学連携のパイプを太くする必要がある。

② 今後の改善方策

各種SNSへの対応、学校HPの改変などウェブマーケティングの施策の強化が継続的に必要。

③ 特記事項

AO入試での受験が、増加傾向にある。高校生の進路決定の早期化も影響大である。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

学校母体である公益財団法人東京YMCAでの公開は行っている。

② 今後の改善方策

本校だけの財務状況を公開。

③ 特記事項

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや適切…2、不適切…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実態と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

自己評価だけでなく学校関係者評価委員会による評価を行うことが出来た。更に第三者評価が出来るようにしていきたい。

② 今後の改善方策

学校内教職員だけでなく、保護者、卒業生、高校教員、業界関係者からなる評価の実施と開かれた学校として情報の開示への改善を行う。

③ 特記事項

個人情報の取り扱いについては、母体である公益財団法人東京 YMCA の方針に順守して行われている。